

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	芦屋市立すすく学級			
○保護者評価実施期間	R6年12月9日		～	R6年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	R6年12月6日		～	R6年12月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	R6年12月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・施設の設定等の保育環境が整っている。	・天候や気温により、活動が制限されることのないように、1・2階の保育室を活用したり、散歩に出かけたりして体を十分に動かす時間を設けるようにしている。	・人的環境や、物的環境を整えていく。 ・近隣の公園の利用を積極的に取り入れていく。
2	・保育内容が充実している。	・活動プログラムが固定化されないように、毎日職員間で検討や振り返りを行いながら、季節に応じた制作物や体操など、新しい活動を取り入れるようにしている。 ・今年新たに、神戸女学院大学のボランティアによる音楽コンサートを企画し、実施した。	・職員の研鑽に加えて、訓練士の助言も取り入れながら、子どもたちの発達に応じた活動内容を検討し、随時取り入れていくようにする。
3	・子どもや保護者に対してきめ細やかな対応ができる。	・保育の中だけでなく、個別の相談にも応じる機会を設けている。 ・卒級後の進路先との移行に向けた引継ぎを丁寧に行っている。	・親子療育の施設のため、日々のコミュニケーションを大切に、いつでも悩みや相談に応じやすい環境を整えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保育所や認定こども園、幼稚園等、地域の子どもと活動する機会がない。	・交流の計画は立てているが、相手先の状況や天候等で制限があり、手紙のやり取りに留まっている。	・交流の時期、内容も含め、相手先と積極的にコンタクトをとり、実現に向けて検討、実施できるようにする。
2	・ペアレントトレーニングを含めた親教室の趣旨が保護者にとって分かりにくい。	・各種相談や親教室等の中でペアレントトレーニングについての文言を聞く機会がないため、保護者にとっては趣旨が分かりにくい。	・保護者の求めるニーズを具体的に聞き、内容を分析し、要望に応じて改善できることを検討する。 ・ペアレントトレーニングは親教室だけでなく、発達相談、個別相談、こころの相談、訓練、日頃の保育等全てが含まれていることを伝えていくようにする。
3	・ソーシャルメディアの活用による発信がほとんどない。	・すすく学級独自のHPはなく、芦屋市のHPの中に入っているため、検索しにくい。 ・急を要する連絡事項のみミマモルメを使用している。毎日保護者と直接話をして情報共有できるため、活動内容も共有でき、行事予定や保育予定、連絡事項等は、おたよりや掲示、口頭で伝達可能な状況である。	・芦屋市のHPで、すすく学級が検索しやすい体制を整える。 ・現在行っているアンケート結果の公表も分かりやすく検索できるようにし、おたよりでも知らせていく。